

## 2012年度鹿屋市・鹿屋体育大学産学連携事業

### — トップアスリートの体力測定に関する報告 —

高井 洋平<sup>1)</sup>, 山本 正嘉<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>鹿屋体育大学スポーツ生命科学系

#### 【2012年度に訪れたトップアスリート】

2010年度より始まった本事業は、鹿屋市が地域振興を図るために、産学官の連携によってトップアスリート等の合宿・自主トレーニングを行う街づくりを推進するものである。スポーツトレーニング教育研究センターでは、身体組成、最大筋力、無酸素性および有酸素性作業能力といった、いわゆる体力という項目の測定を担当してきた。

2012年度は、以下の3名のプロ野球選手が鹿屋体育大学に訪れて、測定に参加をした。

- ・岸田 護  
投手 オリックス・バファローズ
- ・伊藤 光  
捕手 オリックス・バファローズ
- ・秋山 拓巳  
投手 阪神タイガース

#### 【プロスポーツ選手の測定の内容】

測定項目を考える上でのポイントとしては、これまでと同様にスポーツ選手の競技力を反映しているとされている、主に体力（身体組成、筋力、パワー）と技術（動作分析）に関する項目を測定した。なお、測定項目は、コーチやトレーナーと相談の上決定した。その結果、身体形態、身体組成（体脂肪率、除脂肪量、セグメント別の皮下脂肪・筋肉の厚さ）、投球および打動作の3次元動作分析を行った。

#### 【鹿屋体育大学スポーツトレーニングに関する座談会】

本センターが今年度より取り組んでいる学内重点プロジェクト研究「アスリート・ドックシステム」の開発のために、客員准教授として招聘している土

橋恵秀氏を招き、野球関係者へのトレーニング指導、およびコンディショニング支援の実績を踏まえたスポーツトレーニングの在り方や大リーグにおけるメジャーとマイナーの環境の違いについて、座談会形式で講演を行った。

#### 【本事業を通して、本センターが取り組むべき課題】

本事業を通して、国内外で活躍されているプロ野球選手、プロサッカー選手、陸上競技選手、トライアスロン選手など多くの選手が鹿屋市および鹿屋体育大学に訪れた。そのおかげで、我々は貴重なトップアスリートのデータを蓄積することができた。これも、来ていただいた選手ならびにスタッフの皆様、また鹿屋市および本大学の関係者の皆様のご協力があり、実現できたことであり、この場を借りてお礼を申し上げます。

一方で、データフィードバックという点では十分なサポートシステムが出来ていなかった点が今後の課題である。その理由として、比較対象とするデータが十分でないことがまず挙げられる。この点に関しては、本センターが行っている先述したプロジェクトを通して、データの蓄積を行い、各競技に対応したデータの基準値を作成し、サポートシステムに取り入れたいと考えている。また、鹿児島県には多くの競技団体が合宿のための訪れていることから、選手のデータの蓄積とともにサポートシステムを利用いただき、そのシステムを認知してもらう必要もあるかもしれない。

いずれにしても、本事業を通して得られたデータを早急に精査し、早急にサポートシステムを開発できるように取り組んでいきたい。